

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0985
施設名	明日香保育園
施設所在地	北区浮間4-1-3
法人名	社会福祉法人育愛会会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 園周辺は、浮間公園や土手、新河岸東公園等自然豊かな環境である。本園では、スウェーデンの自然環境教育を保育にとりいれている。毎日の戸外遊びで虫や生き物と関り、季節の変化を感じている。子どもたちの気づきや発見を保育士がより丁寧に観察したり感じたりし、探求心を高めていきたいと思っている。

2. 活動スケジュール

令和6年5月 園庭にバイオネスト、虫ハウスを作る。自然物や自然物ではないものを考える体験を行っていく。園庭での遊びを豊かなものにしていきたいと保育士感で考える。「自然」のテーマで年長児の活動を行っていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
自然の循環について学びができるように、園庭にバイオネストを作成したり、虫ハウスを作ったりし子どもたちの好奇心を高めていけるようにしていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

バイオネスト、虫ハウスを年長児の子ども達と一緒に作る。子ども達が、散歩先で見つけた自然物をその中に入れたりする。保育園の沿いの遊歩道の掃除をした後に、ゴミを分別に「土に還るか？ 土に還らないか？」を子ども達と一緒に考えた。虫ハウスを作ったことで、虫や生き物への興味関心が高まり、散歩先でも虫を見つけて観察したり、図鑑で調べたりする姿が多くなった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

バイオネストを作った時は、「大きな鳥の巣だ」「ホントに大きな鳥が来ちゃうかも？」とイメージを膨らませながら作っていた。バイオネストの中に自然物を入れにいったり、遊びの中で子どものが考えて行動する姿があった。保育士は、遊歩道の掃除のゴミを集め、土に還るものは何かを子どもたちと一緒に考える機会を作ったりした。数回行うことで探求心が高まっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自然に触れて遊ぶ経験は日々行っているが、保育士が環境を工夫することで、子どもたちの気づきや発見につながることを感じた。自然は、日々違っていて同じことがない。それを保育士が意識して子どもたちに知らせいくことの大切さを感じた。また、日々の子どもの姿を保育士がていねいに観察したり、言葉を交わしたりすることの大切さも感じた。

園庭での遊びを豊かにしていくために、（株）こどもみらいと契約をし、職員全員で話し合いを繰り返して園庭改造を行っていくことにした。職員自身が学びを深め探求心を高めていくことも大事だと感じた。